

式 辞

北海道高等学校遠隔授業配信センター、愛称「T-base」が、地域の小規模校に通う生徒の中学生の皆さんや、これから進学する関係する皆様の大好きな期待を受け、ミニ有明高校内で第一歩を踏み出すことは北海道教育委員会として大きな喜びであり、これまで多大な御尽力を賜りました関係の皆様に、心から感謝を申し上げます。

また、このあと紹介する正門の看板は、当校の小林先生が筆耕され、職員室の看板につづけた。旭川工業高校の生徒の筆えが製作し、寄贈いただいたものであり、感謝申し上げます。

本道ではこれまで、地域の小規模な高校では大学進学等の進路希望に対応した教科・科目の開設が困難であるなどの理由から、大学進学を目指す中学生の多くが地元を離れ、都市部の高校へ進学するという実態がありました。

道教委では、道内どの地域であっても、生徒自らの可能性を最大限に伸ばしていくことのできる多様で質の高い高校教育を提供するため、遠隔授業の配信機能を集中化した遠隔授業配信センター「T-base」を開設し、地域の小規模校において、生徒の興味・関心や大学進学等に対する教科・科目を配信することとしました。

T-baseからの配信を受ける受信校の校長先生方はこれまで、自校の教育課程を充実させ、遠隔授業を一つのツールとして学校の魅力化に取り組まれるようお願いします。

また、T-baseの先生方には、配信先の生徒一人一人が、将来の夢に向かって充実した学びを享受できるよう、これまで培ってきた遠隔授業のスキルや豊富な経験を活かすとともに、今後活用が期待されるICT機器やクラウドサービスなども積極的に取り入れ、教育活動の充実を図っていただきたいと思います。

さらに、受信校が所在する高村教育委員会の皆様におかれましては、このT-baseによる遠隔授業の配信を、広く地元の小・中学校や各ご家庭にお知らせいただき、多くの子どもたちが地元の高校に対する理解を深め、目標をもって進学し、地域の発展に貢献する意欲を育むことができるよう、御理解と御協力をお願ひ申し上げます。

結びに、本日御臨席を賜りました皆様におかれましては、新たに一步を踏み出したT-baseが、道内小規模校を支える拠点となり充実した教育活動を展開していくことができるよう、より一層の御厚情と御支援をお願い申し寄せます。

令和三年三月二十一日

北海道教育委員会
教育長 小玉俊宏